

2009年6月26日

HSBCグループ、2009年第2四半期 ファンドマネジャー調査結果：中国株に強気が増加

ロンドンに本拠をおく世界有数の金融・銀行グループであるHSBCは、運用資産額で世界の大手資産運用会社12社^{注1)}を対象にアセット・アロケーションの方向性とグローバルなマネーフローを分析した、2009年第2四半期のファンドマネジャー調査の結果を発表しました。

今回の調査結果では、中国株に対して強気な見方を示したファンドマネジャーは、2009年第1四半期の同調査結果の67%から75%に増加しました。主な結果は次の通りです。

アセット・アロケーションの方向性

調査対象である世界の大手資産運用会社のファンドマネジャーは総じて株式に対する楽観的な見方を後退させたことが明らかになりました。株式をアンダーウェイトとしている割合が2009年第1四半期の22%から2009年第2四半期には40%に増加しました。センチメントが最も大きく変化したセクターは日本株で、アンダーウェイトとしたファンドマネジャーは第1四半期の33%から70%に増加しました。欧州株への見方はニュートラルが第1四半期の56%から減少し36%となり、アンダーウェイトが第1四半期の22%から36%に増え、オーバーウェイトは第1四半期の22%から27%に増加しました。米国株式に関してはニュートラルの見方が第1四半期の33%から45%に増加しました。

一方、債券に対する見方は2009年第2四半期も依然として強気であり、債券をオーバーウェイトとしたファンドマネジャーは2009年第1四半期の57%から70%へとさらに増加しました。欧州債券に関しては56%がオーバーウェイトとし（2009年第1四半期は50%）、米国債に関しては44%がオーバーウェイト（同29%）、グローバル新興国/ハイイールド債券に関しては44%がオーバーウェイト（同33%）、ならびにアジア債券に関しては38%（同33%）がオーバーウェイトとなっています。

現預金に関しては、オーバーウェイトとの見方（2009年第1四半期の33%に対し、同年第2四半期は25%）からアンダーウェイト（2009年第1四半期の17%に対し、同年第2四半期は25%）へやや移行しました。

次頁に続く

HSBCグループ香港上海銀行個人金融サービス本部本部長兼マネージングダイレクターのフランソワ・モローは次のように述べています。「第1四半期末には株式が大幅に反発したもののグローバル経済の見通しは依然として不透明で市場は今後も荒い値動きが予想されます。このためファンドマネジャーは慎重な姿勢を強めるとともに、株式の運用ではより選別色を強めることによって質と安全性を追求し、比較的ボラティリティの低い債券セクターに重点を置きながらバリュー投資の機会と成長投資の機会獲得に努めています。景気刺激策の効果が最近の経済指標によって地方経済にまで波及し始めている兆しが明らかになったことから、株式セクターの中では、中国株式は引き続き最も高い人気を集めています。」

グローバルなマネーフローの分析

今回の調査では、運用資金額で見た世界の大手資産運用会社12社^{注1)}の資産配分に関する見方と世界的なマネーフローの分析が行われています。推定ネット・マネーフロー^{注2)}は、運用資産額に対する各資産の指数の動きから導いたものです（調査結果の添付資料を参照）。

2009年第1四半期末現在、調査対象運用会社12社の運用資産残高の合計額は約2.4兆米ドルで、世界全体の推定運用資産総額^{注3)}の約12.8%に相当します。2009年第1四半期末での調査対象運用会社12社の運用資産額は、2008年第4四半期比で4.05%、1,021億米ドル減少したことを示しています。バランス型ファンドおよびその他のファンドも減少しましたが、株式ファンドの減少額約853億米ドルが運用資産額全体の減少の主要な原因です。その一方で、マネー・マーケット・ファンドの運用資金は増加しました。

下記の表は、各資産別に2009年第1四半期中の運用資産増加額から各市場の成長分を差し引いたネットフローです。

セクター別、運用資産額のネットフロー (%)

資産タイプ	2009年第1四半期末	2008年第4四半期末
エマージング株式	-1.6%	-9.2%
中国株式	+5.2%	-4.4%
グローバル株式	-2.7%	+3.3%
ハイイールド/エマージング債券	-5.4%	-11.9%
欧州（英国を含む）債券	+9.2%	+8.7%
米国債券	+1.7%	+2.9%

中国株式は、昨年後半に投資家が資金を引きあげましたが、2009年第1四半期には再び資金が流入しています。これは、この地域の景気回復と成長見通しに対する信頼感が向上したことを示しています。また経済の安定化とクレジット市場の好転を示す初期の兆しははっきりしてきたことから、新興国市場/ハイイールド債に対する投資家の選好度合いが回復しました。

フランソワ・モローは、また次のようにも述べています。「投資家の信頼感は少し上向いてきましたが、グローバル経済の不透明感の継続に関しては依然として慎重な見方をしています。投資家はポートフォリオのバランスを保ちつつ分散投資を進めるために、頻繁にそれぞれのファイナンシャル・アドバイザーに相談し、投資戦略を随時更新する必要に迫られています。投資家は中国株式セクターにおける、より良い成長機会を探ってはいますが、高格付け社債など比較的保守的な商品に対する関心を強めていることから明らかなように、依然として慎重な姿勢を崩していません。グローバル経済の長期的な成長見通しがより鮮明にならない限り、投資家の間では依然として元本の確保が投資の最優先課題になっており、『質への逃避』の選好姿勢が根強いことを示しています。」

過去11四半期をカバーする米ドル建マネーフローの累計額を示す「HSBCファンドフロー・トラッカー」によれば、2008年第4四半期から2009年第1四半期にかけて株式ファンドへの資金流入がネットでプラスであったことも確認されました。

調査の詳細について

より詳しい情報については、2009年4月から5月に実施した添付の「HSBCファンドマネジャー調査：グローバル・マネーフロー追跡」をご参照ください。

注記:

1:調査協力資産運用会社 12社は以下のとおりです。

アライアンス・バーンスタイン、アリアンツ・グローバル・インベスターズ、ベアリング・アセット・マネジメント、ブラックロック、フィデリティ・インベストメント・マネジメント、フランクリン・テンプルトン・インベストメンツ、JPモルガン・アセット・マネジメント、インベスコ・アセット・マネジメント、インベステック・アセット・マネジメント、プルデンシャル・アセット・マネジメント、シュローダー・インベストメント・マネージメント、ソシエテジェネラル

2: ネット・ファンドフローは、2009年第1四半期における運用資産の増加額から市場の増加額を差し引いて求めました。

3: インベストメント・カンパニー・インスティテュートによると 2008年第4四半期末現在の世界の運用資産総額は 18.97 兆米ドルです。

HSBC グループ

HSBC グループの持株会社である HSBC ホールディングス plc は英国に本部を置いています。HSBC グループは世界で 1 億の顧客に対してサービスを提供しております。HSBC グループは、ヨーロッパ、アジア太平洋地域、アメリカ大陸、中東、アフリカにまたがる 86 の国と地域に 9,500 を超える拠点を擁し、2008 年 12 月末現在 2 兆 5,270 億米ドルの総資産を持つ世界有数の金融グループです。

日本における香港上海銀行

HSBC グループの母体行である香港上海銀行(本店・香港)は、日本で 140 年以上営業を続けており、事実上、日本で最も長い歴史を持つ銀行です。現在、東京と大阪に支店を展開しています。法人向けの金融業務、プライベートバンク業務や HSBC プレミアなどの個人向け金融業務を提供しています。

HSBC プレミア

HSBC グループの個人向け金融業務で、成長が著しいマス富裕層にグローバルな個人向けウェルスマネジメント・サービスを提供しています。2000 年にサービスを開始し、2007 年 5 月には、サービス内容などを一新したインターナショナル・サービスを開始しました。すでに、世界の 43 の国と地域で 300 以上の HSBC プレミアセンター（店舗）が設置されており、260 万人以上の顧客にサービスを提供しています。世界中どこにいても自国にいるような感覚で利用できる銀行サービスであり、日本では、お預り資産残高が 1,000 万円以上のマス富裕層のお客様のための専門銀行サービスとして、クオリティーの高い個人向けウェルスマネジメント・サービスを提供します。日本では、2008 年 1 月にサービスを開始しました。これまでに赤坂、銀座、広尾、丸の内、横浜、池袋、神戸に HSBC プレミアセンターが開設されており、日本全国の HSBC プレミアセンターの支店網は 7 店舗です。

以上

HSBCファンドマネジャー調査: グローバル・マネーフロー追跡

2009年6月26日

調査目的

- グローバルなマネーフローを分析する
- グローバルなアセットアロケーションの実態を把握する
- ファンドマネジャーの市況観を理解する
- ファンドマネジャー自身に調査に協力してもらうことにより、タイムラグのない、生きた情報を得る
- 顧客がグローバルな観点から現在の投資環境について理解を深める一助となる

調査方法

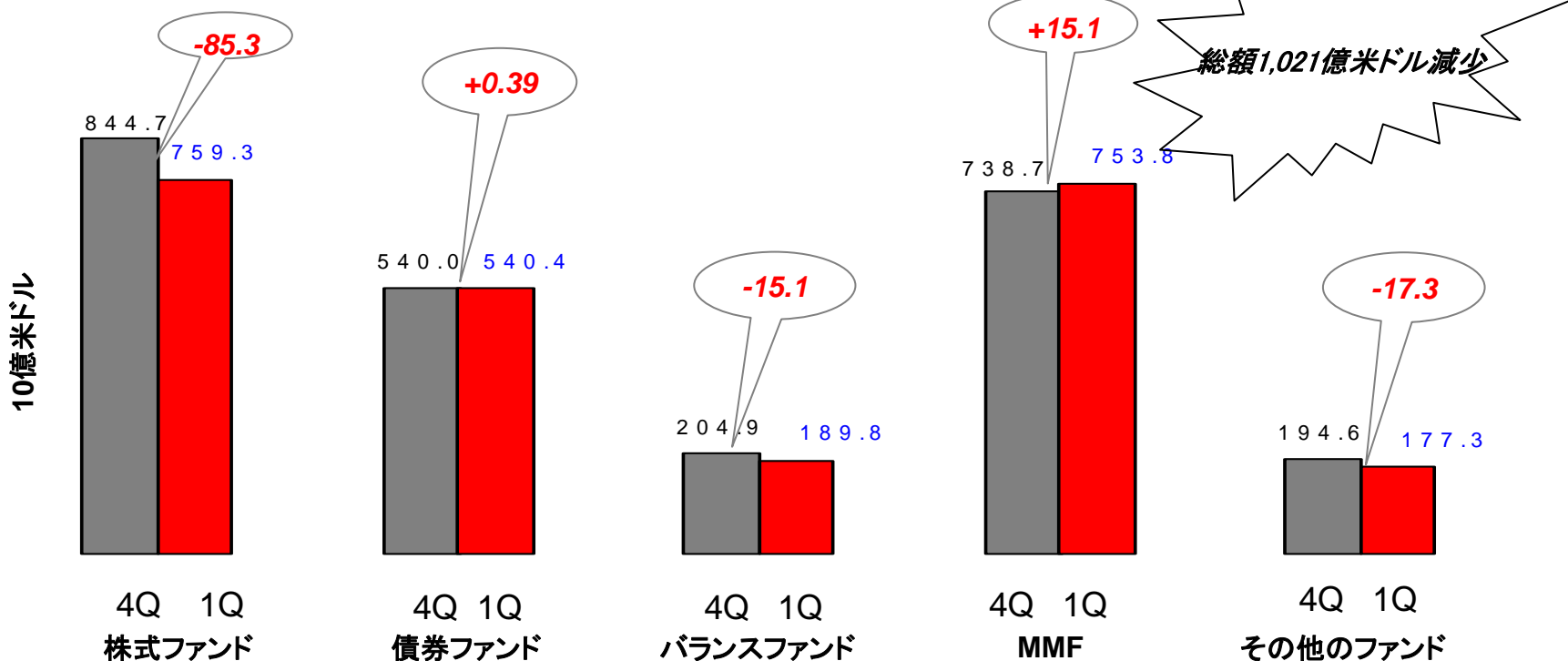
- 本四半期ベース調査には、世界全体の推定運用資産残高(注1)の約12.8%を担当する以下の大手資産運用会社が協力: アライアンス・バーンスタイン、アリアンツ・グローバル・インベスターズ、ベアリング・アセット・マネジメント、ブラックロック、フィデリティ・インベストメント・マネジメント、フランクリン・テンプルトン・インベストメンツ、インベスコ・アセット・マネジメント、インベステック・アセット・マネジメント、JPモルガン・アセット・マネジメント、プルデンシャル・アセット・マネジメント、シュロージャー・インベストメント・マネージメント、ソシエテ ジェネラル
- 本調査では、調査への協力運用会社の2008年第4四半期末および2009年第1四半期末(注2)における運用資産残高の内訳の分析を行った。
- 本調査では、ファンドマネジャーの2009年第2四半期の市況感(資産タイプ別、地域別など)についても情報を収集。

1. 2008年第4四半期末における運用資産残高の総額は18.97兆米ドル(インベストメント・カンパニー・インスティテュート)。
2. 2009年第1四半期のデータは、2009年3月31日現在。

2009年第1四半期の運用資産

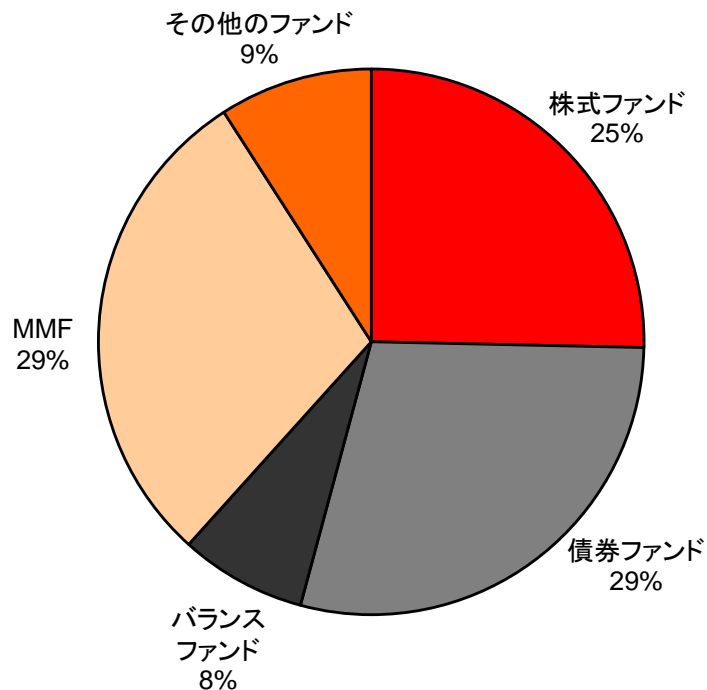
- 本調査に協力したファンドマネジャーの運用資産残高の総額は2009年第1四半期末現在で2.4兆米ドル。調査では、2008年第4四半期から2009年第1四半期にかけて、運用資産残高は1,021億米ドル、4.05%相当減少したと推定。

2008年第4四半期末、2009年第1四半期末運用資産残高(10億米ドル)

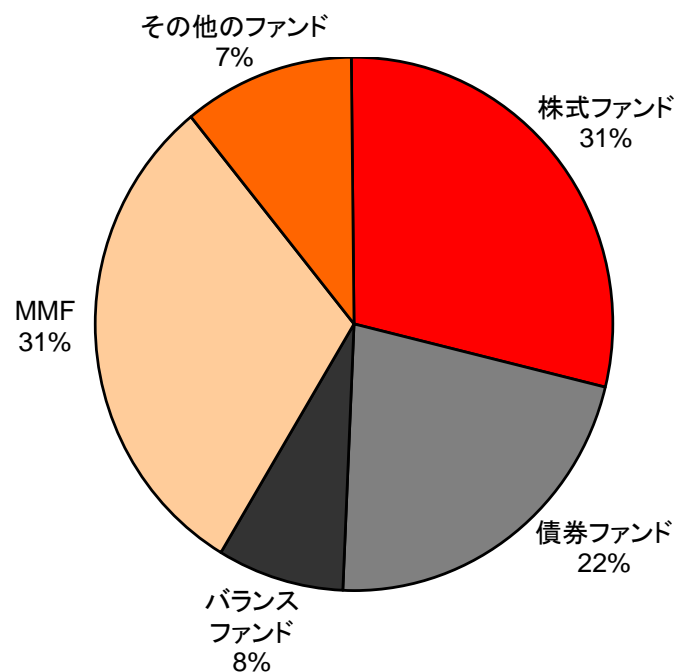


運用資産の内訳

2008年第4四半期
資産タイプ別の運用資産残高内訳



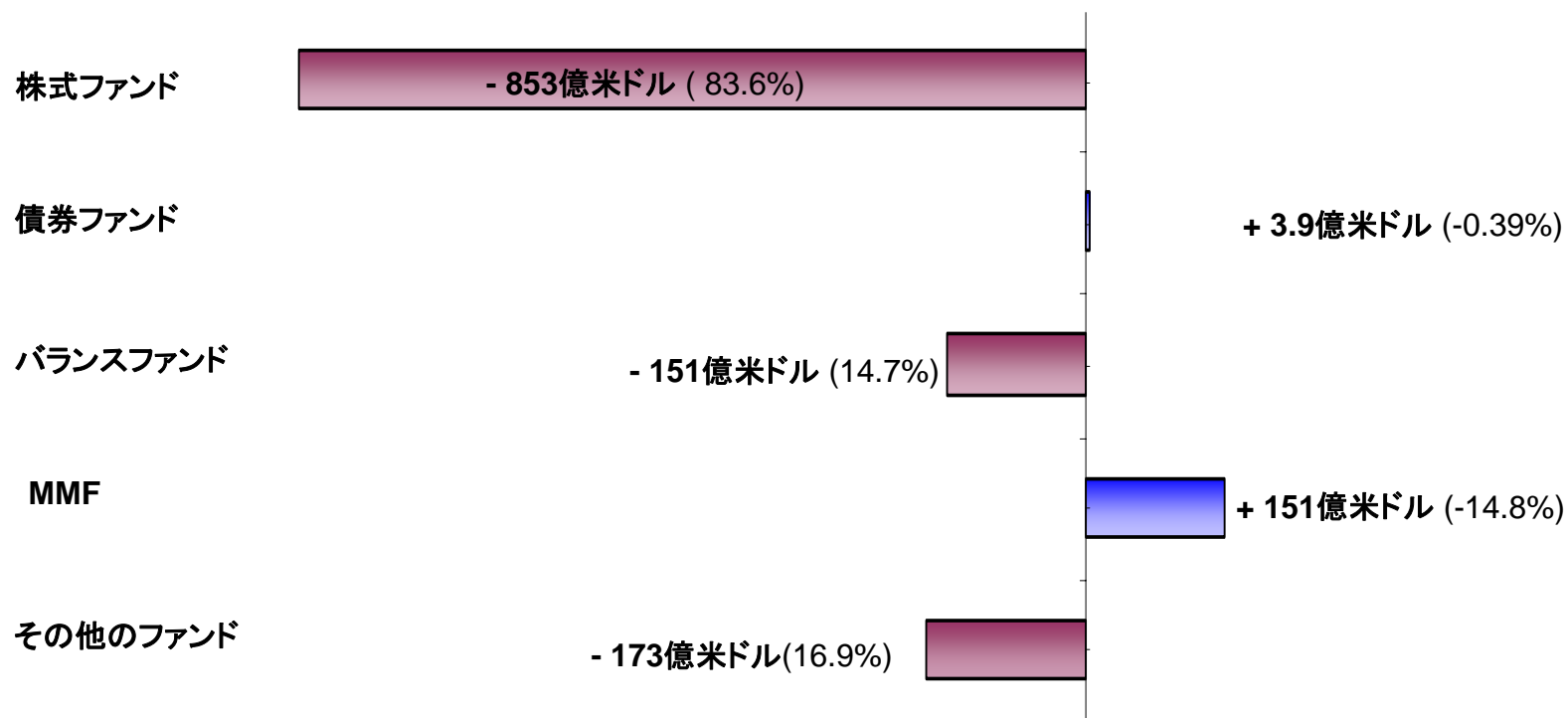
2009年第1四半期
資産タイプ別の運用資産残高内訳



(注) 端数調整により合計が100%にならない場合がある。

運用資産総残高の増減への影響度(資産タイプ別)

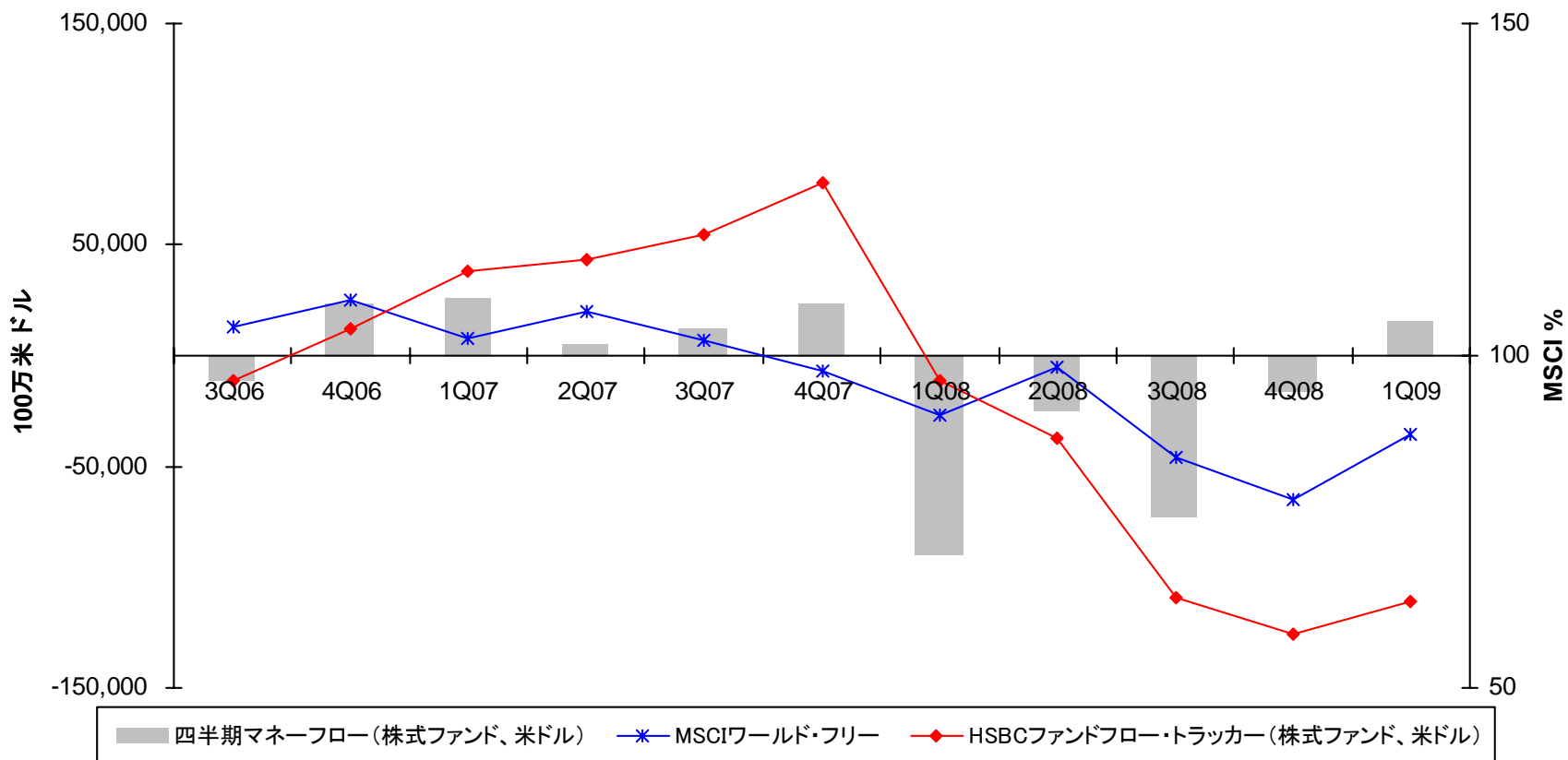
- 2009年第1四半期の運用資産残高の減少の大半が、株式ファンドに起因する。



(注) 端数調整により合計が100%にならない場合がある。

HSBC ファンドフロー・トラッカー 株式ファンド

- 株式市場のパフォーマンス向上に伴い、2009年第1四半期には株式ファンドへの資金流入がネットでプラスになった。

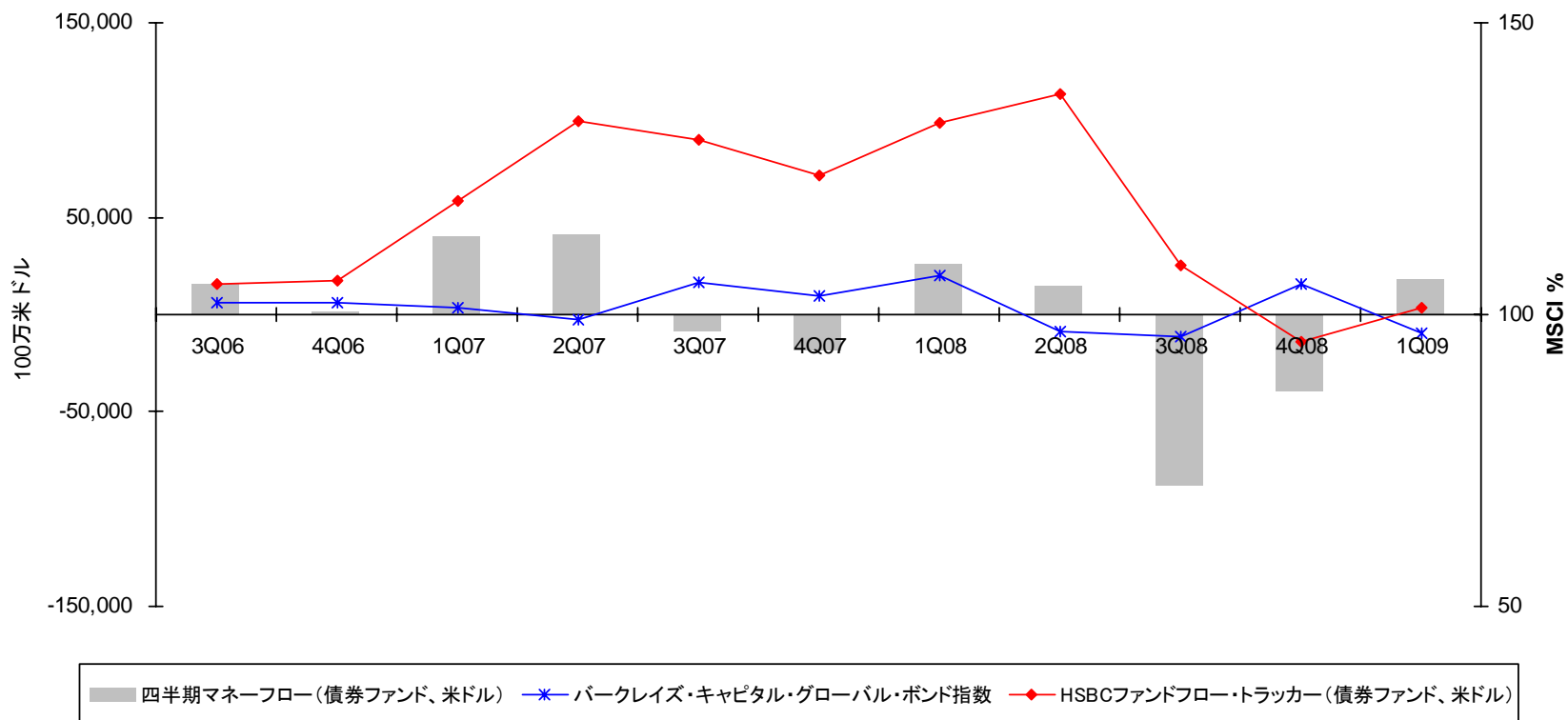


(注) HSBCファンドフロー・トラッカーはHSBCファンドマネジャー調査で報告された四半期ベースのマネーフローのドル建ての累計額を示す。

HSBC 
The world's local bank

HSBC ファンドフロー・トラッカー 債券ファンド

- 債券ファンドには、投資家の「質への逃避」傾向と悲観的な経済見通しを背景に、全体としては資金流入が見られた。

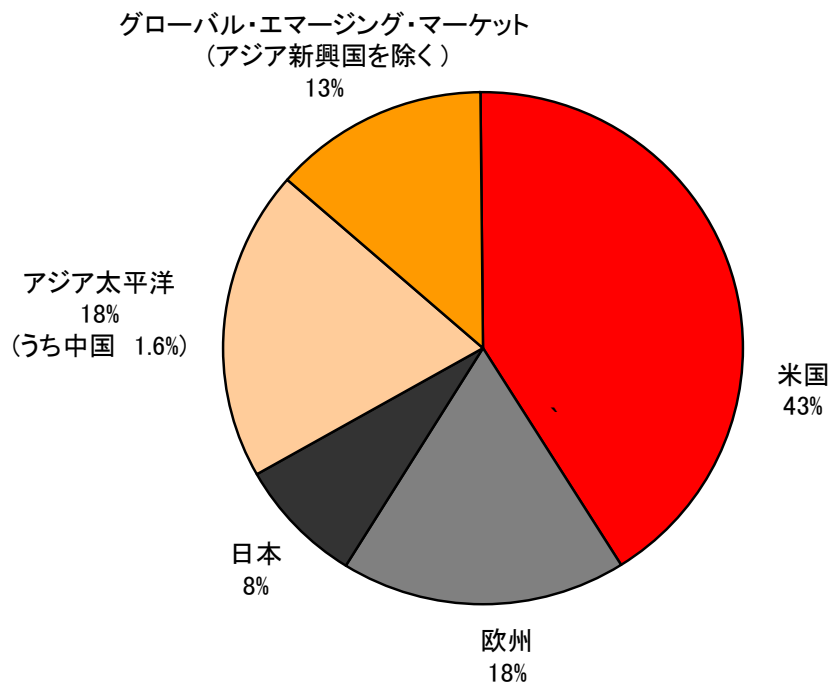


(注) HSBCファンドフロー・トラッカーはHSBC ファンドマネジャー調査で報告された四半期ベースのマネーフローのドル建ての累計額を示す。

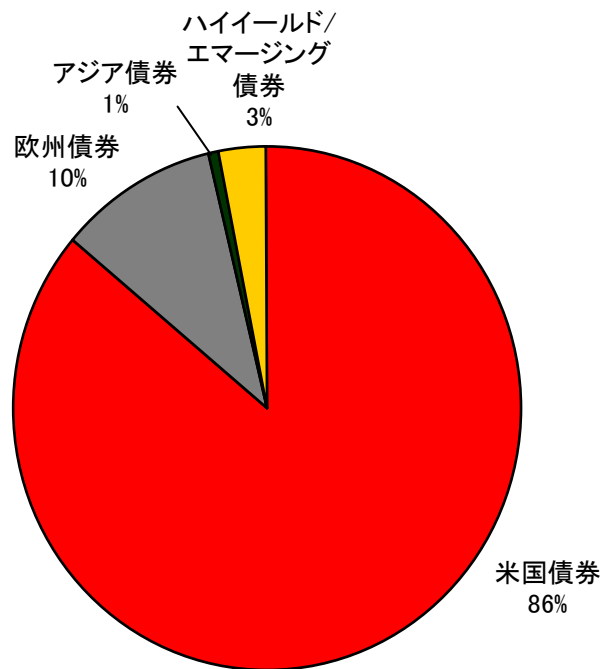
運用先の地域別内訳

- 株式、債券共に、2009年第1四半期は、圧倒的に米国と欧州が投資対象地域となっている。

地域別株式ファンド

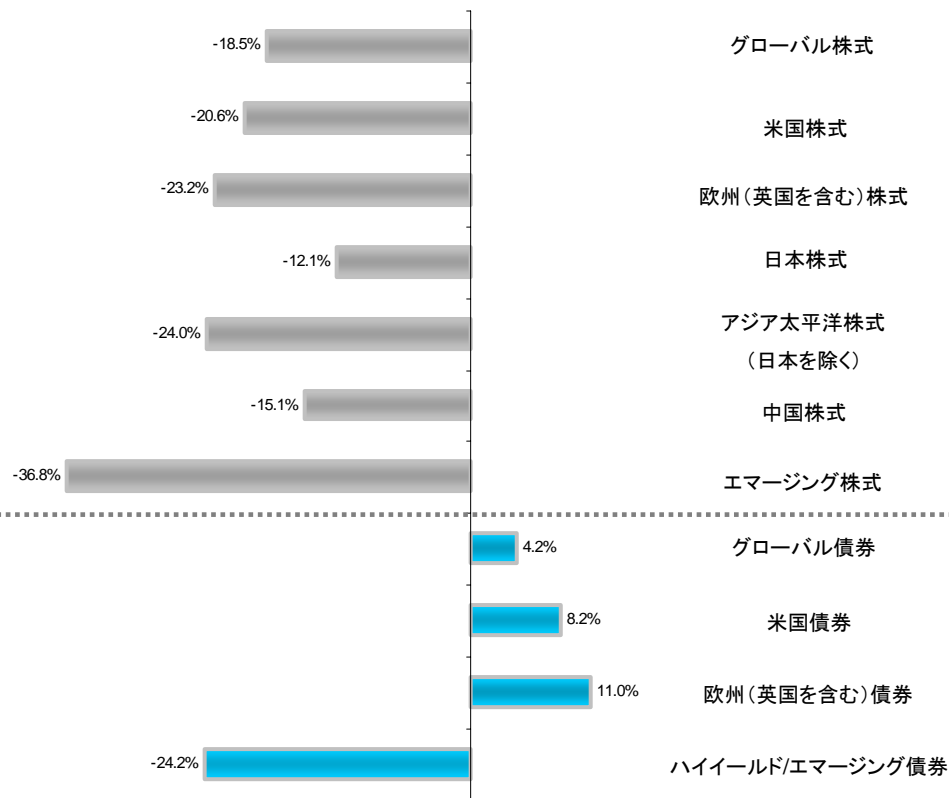


地域別債券ファンド



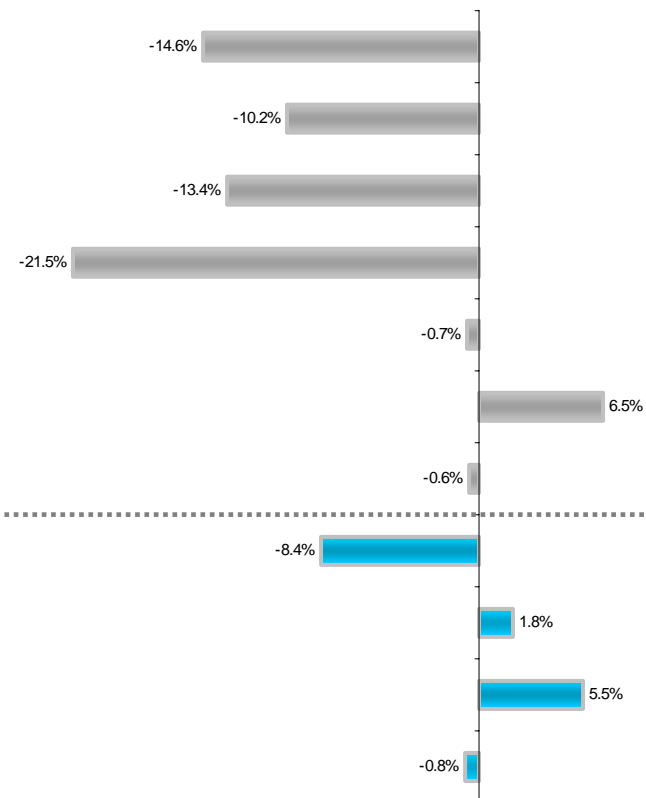
運用資産残高の推移

2008年第4四半期 運用資産残高増加/減少



■ 株式ファンド
■ 債券ファンド

2009年第1四半期 運用資産増加/減少

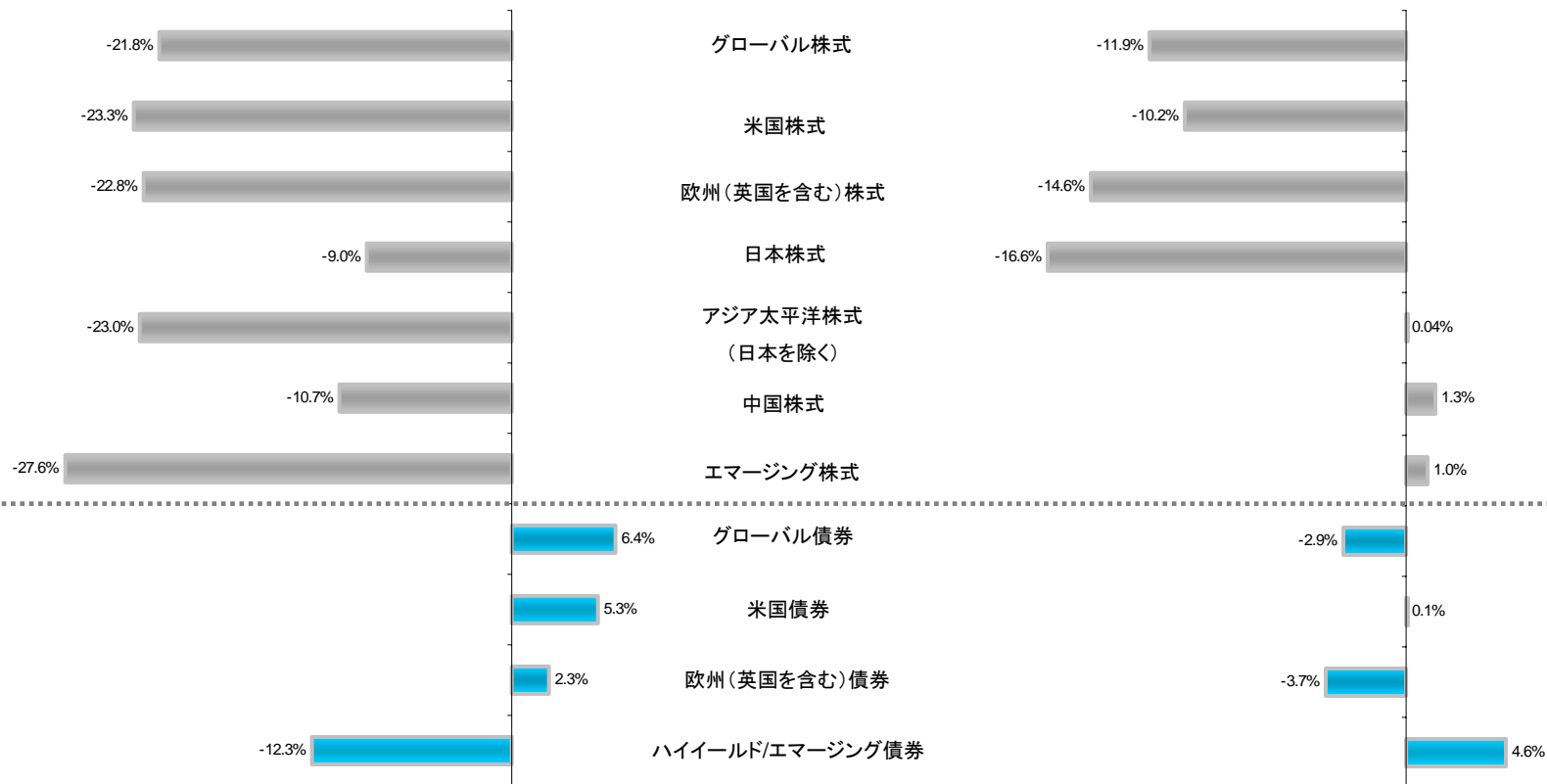


HSBC 
The world's local bank

2008年第4四半期、2009年第1四半期 市場パフォーマンス

2008年第4四半期マーケット・パフォーマンス

2009年第1四半期マーケット・パフォーマンス



■ 株式ファンド
■ 債券ファンド

出典:ブルームバーグ、モーニングスター

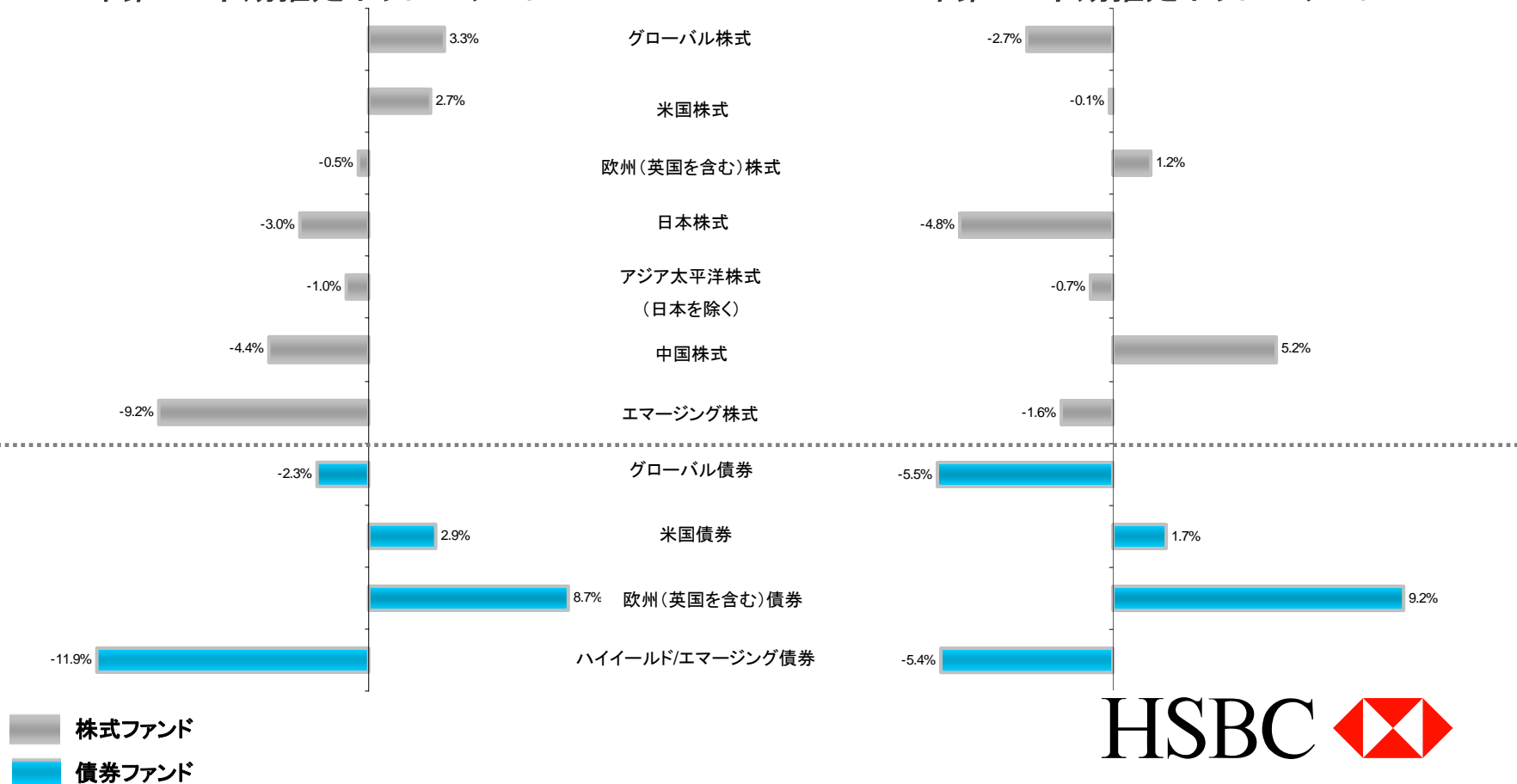
HSBC 
The world's local bank

運用資金の流出入

- 中国経済の回復の兆しが見えてきたことで、中国株式ファンドには、5.2%の資金流入が見られた。
- 債券では、欧州中銀(ECB)と英国中銀(BOE)の金融緩和政策が好感され、欧州債券への資金流入が最大となった。

2008年第4四半期推定ネット・ファンドフロー

2009年第1四半期推定ネット・ファンドフロー



2009年第2四半期タイプ別アセット・アロケーション戦略

- 調査対象のファンドマネジャーは、株式に対しては慎重な姿勢を崩していないが、債券に対しては楽観的な見方をしている。

資産別アセット・アロケーション戦略	アンダーウェイト	ニュートラル	オーバーウェイト
株式	40%(22%)	30%(44%)	30%(33%)
債券	10%(0%)	20%(43%)	70%(57%)
現預金	25%(17%)	50%(50%)	25%(33%)

注:

- ()内の数字は前四半期(2009年第1四半期)の調査結果を示す。
- オーバーウェイト:一般に受け入れられているベンチマークより強い投資ポジション。当該資産タイプの見通しに、より楽観的・強気であることを示す。
- アンダーウェイト:一般に受け入れられているベンチマークより弱い投資ポジション。当該資産タイプの見通しに、より悲観的・弱気であることを示す。
- ニュートラル:一般に受け入れられているベンチマークと同じ投資ポジション。当該資産タイプの見通しと別段異なる見方をしていないことを示す。
- 端数調整により合計が100%にならない場合がある。

2009年第2四半期地域別アセット・アロケーション戦略

- 株式に関して、最近の中国経済指標で景気回復が示唆されたため、調査に協力したファンドマネジャーは中国株式を最も強気に見ている。
- ファンドマネジャーの欧州株式に対する見方は以前ほど強気ではなくなった。また、経済見通しが悪化している日本株式に対しては弱気になっている。
- 金融市場に安定化の兆しが見られ、ハイイールド/グローバル・エマージング・マーケット債を選好するファンドマネジャーが増加している。

地域別 アセット・アロケーション戦略	アンダーウェイト		ニュートラル		オーバーウェイト	
	2Q09	1Q09	2Q09	1Q09	2Q09	1Q09
株式						
米国	27%	33%	45%	33%	27%	33%
欧州(英国を含む)	36%	22%	36%	56%	27%	22%
日本	70%	33%	20%	56%	10%	11%
アジア太平洋(日本を除く)	27%	22%	27%	33%	45%	44%
エマージング・マーケット	36%	38%	36%	25%	27%	38%
中国	0%	0%	25%	33%	75%	67%
債券						
米国	11%	43%	44%	29%	44%	29%
欧州	0%	0%	44%	50%	56%	50%
ハイイールド/グローバル・エマージング・マーケット	22%	33%	33%	33%	44%	33%
アジア	25%	17%	38%	50%	38%	33%

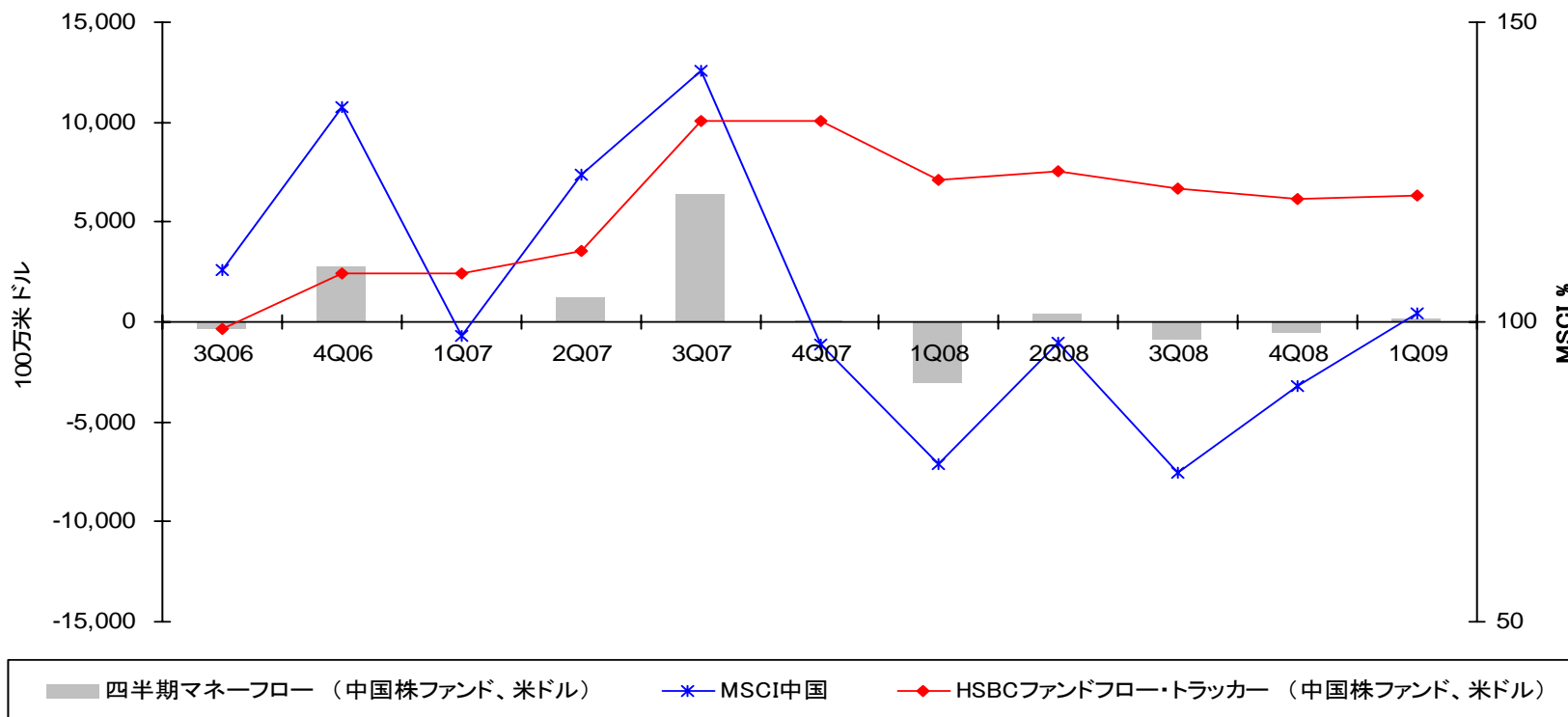
(注)端数調整により合計が100%にならない場合がある。



The world's local bank

HSBC ファンドフロー・トラッカー 中国株ファンド

- 安定した資金流入から、ファンドマネジャーも強気の見方



(注) HSBCファンドフロー・トラッカーはHSBCファンドマネジャー調査で報告された、四半期ベースのマネーフローのドル建ての累計額。



調査ハイライト

- 2008年第4四半期から2009年第1四半期までのファンドフロー

- 株式ファンドについては、中国経済に回復の兆しが見られたことで、中国株式ファンドに5.2%の資金流入が見られた。
- 債券ファンドに関して、欧州中銀(ECB)と英国中銀(BOE)の金融緩和政策が好感され、欧州債券への資金流入が最大となった。

- 2009年度第2四半期に対するファンドマネジャーの見方

- ファンドマネジャーの7割が債券にオーバーウェイトの見方をしている。これらのファンドマネジャーはすべての地域の債券について、オーバーウェイトの評価をしている。
- ファンドマネジャーは総じて株式に弱気な見方をしているが、中国株式に対しては強気な見方をするファンドマネジャーが増えている。

免責条項

本調査で得られた情報は第三者により提供されたものであり、当行は独自に検証作業を行っておりません。当行は情報の正確性、完全性につき如何なる保証、表明をするものではなく、明示または黙示を問わず、本調査の商品性や特定目的への適合性を含め、一切の保証を行うものではありません。本調査の情報および表明された意見は金融商品の購入や売却を勧誘するものではありません。万一、投資家の皆様が、この調査の情報に基づいて被ったいかなる損害につきましても、当行は一切責任を負うものではありません。

出典

11ページのスライドはブルームバーグとモーニングスターの提供によるが、それ以外はすべてHSBC ファンドマネジャー調査からの引用。